

科目名		建築積算			
担当教員	田中 みちよ		実務授業の有無	○	
対象学科	建築大工科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築における、基本的なコスト考え方と積算の手法を講義と演習を通して学ぶ。 1. 建築計画に必要な各条件、工法にもとづいた積算の考え方の重要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した計算方法と進め方の基本を理解する。 3. 講義→演習→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。				
学習目標 (到達目標)	建築物のコストの成り立ちを理解する。 設計でも施工でも避けて通ることのできない業務であるため、実践に即した形で理解を進める。 各工種のうち、これだけは知っておかねばならないという工種に絞り、積算の仕方を会得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①初めて学ぶ建築実務テキスト「建築積算」(市ヶ谷出版社) ②演習問題				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	建築物の企画～施工までの流れ ①建築物の計画から基本設計・実施設計、見積・入札・契約・受注に至る過程について	方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 実践例題を使って、演習を加え答練しより理解度を深める 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
2	数量と単位 ①積算特有の決まりごと	方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 実践例題を使って、演習を加え答練しより理解度を深める 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
3	積算実践(仕上) ①もっとも関わる頻度が多い内外装仕上の数量	方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 実践例題を使って、演習を加え答練しより理解度を深める 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
4	積算実践(コンクリート) ①RC造の3要素であるコンクリートの数量	方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 実践例題を使って、演習を加え答練しより理解度を深める 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
5	積算実践(型枠) ①RC造の3要素である型枠の数量	方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 実践例題を使って、演習を加え答練しより理解度を深める 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
6	積算実践(土工事) ①根切、埋戻し、地業の関連と土工事の数量	方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 実践例題を使って、演習を加え答練しより理解度を深める 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
テストと提出物を加重平均して評価とする。 他人の提出物を写す等の不正に対しては、厳しく対処する。 各テスト50%、提出物50% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		解説を行い→演習する の形式でテーマの習得を目指す 電卓を使う演習が多いため、必ず用意させる。 積算はコストを左右する重要な業務でありながら、社会では「できて当たり前」と考えられていたため、マスターすることが基本。 各テーマごとの演習が重要なので、理解するまで確実に取り組ませる。			
実務経験教員の経歴	建築設計積算、施工における品質管理に28年従事				